

狭山市中心市街地活性化基本計画 (学校統廃合関連部分抜粋)

平成 24 年度～平成 28 年度



平成 24 年 3 月

狭山市

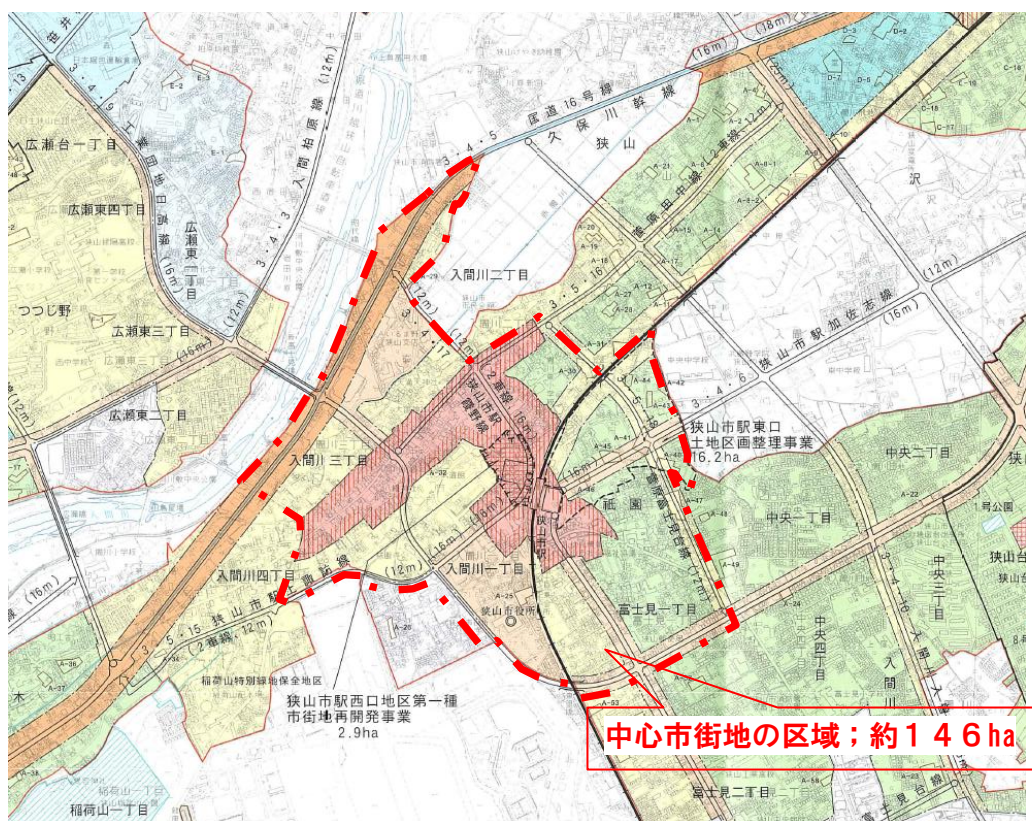
1. 中心市街地の現状と特性

(1) 中心市街地の沿革・位置づけ

① 中心市街地の位置

旧基本計画では、狭山市の上位・関連計画（第2次狭山市総合振興計画等）で市の中枢的な拠点として位置づけられてきた狭山市駅周辺地区を中心市街地として位置づけています。

具体的には、狭山市駅周辺地区にあたる入間川一丁目～三丁目、祇園、富士見一丁目を基本に、入間川二丁目の市街化調整区域や住居系用途地域が指定されている区域の一部を除いた範囲を中心市街地の区域（約146ha）として設定しています。



② 中心市街地の沿革

中心市街地は、鎌倉時代より鎌倉街道の宿場町として、また、室町時代には交通や軍事上の重要拠点として発展しました。

江戸時代以降は、商業の中心として穀物、生糸、織物などを扱う商家が建ち並び賑わっていました。

戦後の高度成長期には、工業団地や住宅団地の造成により人口が急増し市街地が拡大しましたが、それとともに隣接する川越市、所沢市、入間市などへ大型店舗を中心とした商業の集積が進み、中心市街地の商業は衰退していきました。

現在、狭山市駅周辺については、狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業を核として、新都市機能ゾーンや狭山市駅橋上駅舎化・東西自由通路の整備を含めた周辺整備が進み、市の顔としての基盤整備が概ね整ってきている状況です。

(2)人口・世帯動向

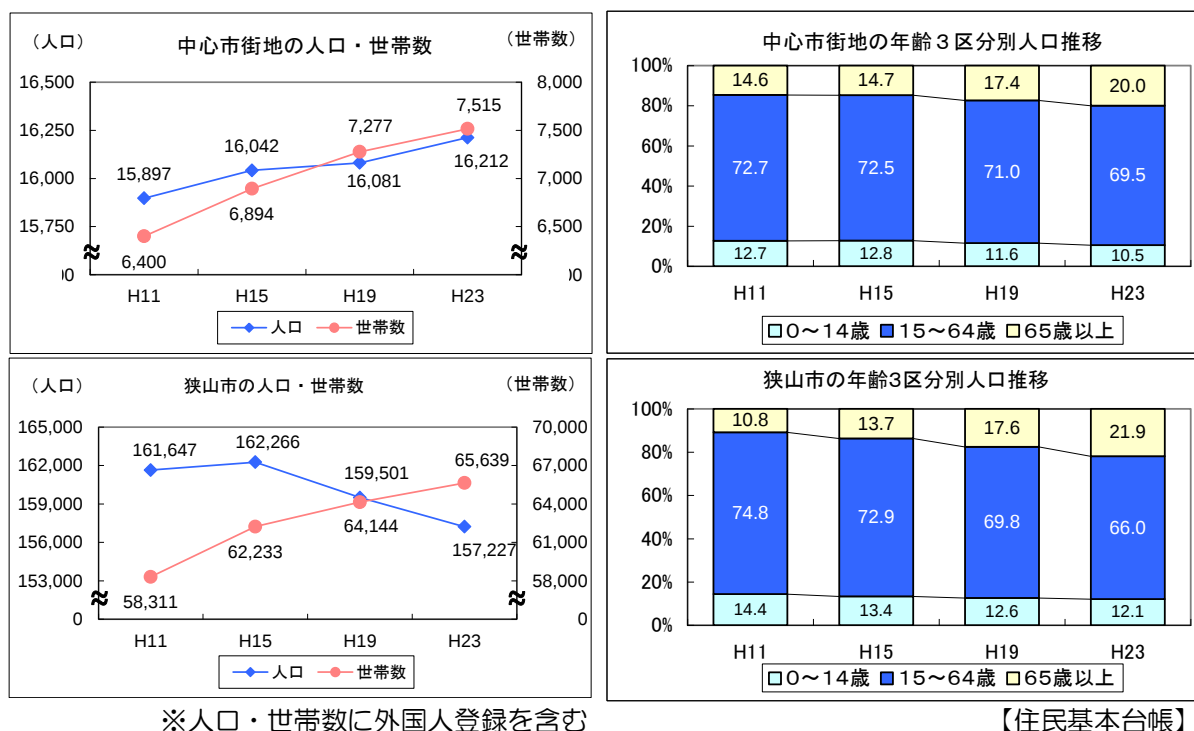
平成 23 年 1 月現在、中心市街地では、約 16,200 人、7,500 世帯となっています。人口は、全市的に減少傾向にある一方で中心市街地では増加の傾向にあります。また、世帯数は、全市、中心市街地ともに増加傾向にあります。

年齢 3 区分別の人口推移では、全市、中心市街地ともに、14 歳以下の人口割合の減少と 65 歳以上の人口割合の増加が見られ、全市的に少子高齢化が進んでいます。

中心市街地では 15～64 歳人口の占める割合が全市と比較して高い一方、14 歳以下の人口が占める割合が低くなっています。

中心市街地・狭山市の人口世帯数、年齢 3 区分別人口推移

(各年 1 月 1 日現在)



スカイテラスからの眺望（飯能・秩父方面を望む）

5. 中心市街地の活性化の目標と評価指標の設定

目標 1 ～ 6 の達成状況が把握できる評価指標を以下のとおり定めます。

【指標】

目標 1：良好な市街地環境の形成

目標 2：地域コミュニティの増進

目標 1・2 に対応した指標

○居住者人口

平成 23 年 1 月 1 日 中心市街地人口を基準として 5 年間で約 200 名増とします。

平成 23 年 1 月 1 日	⇒	平成 29 年 1 月 1 日
15,805 人 (16,212 人)	⇒	16,000 人 (16,400 人)

※（ ）は外国人登録数を含む人数

○中心市街地への居住希望者数

「どちらでもない」、「住みたくない」の回答の割合を現在（約 60%）の 1/4 程度減らし、「住みたい」の回答の割合 45% を目標とします。

平成 22 年 1 2 月 アンケート	⇒	平成 28 年度
住みたい（条件があれば住みたい） の回答の割合 30.8%	⇒	45%

目標 3：商業等の各種都市機能の集積

目標 4：まちの賑わいの創出

目標 3・4 に対応した指標

○狭山市駅利用者数

駅利用者は、過去 5 年の値から減少傾向にありますが、事業の実施による効果により 38,000 人を減少の下限とすることを目標とします。

平成 22 年	⇒	平成 28 年
41,717 人	⇒	38,000 人